

日本神経科学学会 2022 年度の活動報告

日本神経科学学会（渡部文子・東京慈恵会医科大学・awatabe@jikei.ac.jp）

Activity Report in 2022, The Japan Neuroscience Society

The Japan Neuroscience Society

(Ayako M. Watabe, Jikei University School of Medicine, awatabe@jikei.ac.jp)

日本神経科学学会は、脳神経系研究の推進を目的に1991年に設立された団体であり、現在約6000名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会は2022年度7月に沖縄において日本神経化学会、日本神経回路学会との合同大会としてハイブリッド形式で開催されました。このような状況への対応を含め同委員会の活動について報告致します。

1. ハイブリッド大会の特色と今後の課題

本学会における過去9年間の大会参加者数を調べたところ、女性比率は2014年度の24%から毎年着実に増加し、2020年度のweb開催では28%、昨年度、今年度のハイブリッド開催では30%を超えたのが大きな特徴です。参加人数自体も今年度は急増し、女性参加者が初の1000人を超えとなりました。また年代別に見てみると、10代は女性比率が55%、20代も40%であり、20代の女性参加者はこの9年間で2.2倍に増えています。

詳細な分析は専門委員会の報告を待ちますが、参加が増えている若手女性研究者が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性研究者が継続して研究活動に従事するために必須であると考えられます。また、30代、40代の参加者女性比率は29%、26%にとどまっており、中間管理職にあたるこの世代は、家庭でも受験や介護など、出張を伴う活動が困難なワークライフバランス状況を反映するのかもしれません。未就学児を抱える世代への支援に加えて、今後はこうした世代への対策も必要であると考えます。

2. 子育て中の研究者の活動支援

本学会では2004年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、子供と一緒に利用できる休憩室も設置しています。今年度はハイブリッド大会として開催されたことから、託児所利用者は延べ35名、1日平均8.8人の利用がありました。今後、ポスター会場等における親子スペース設置等を含め、次年度以降も積極的な取り組みを継続する予定です。

3. 大会中のダイバーシティ対応委員会企画

今年度は日本神経科学学会、日本神経化学会、日本神経回路学会合同大会の共同企画として、ランチョンセミナー「ひとりひとりが輝く人材育成」が沖縄科学技術大学院大学（OIST）のYoe Uusisaari先生、富山大学の東田千尋先生オーガナイズのもと開催されました。OISTの田中和正先生が「アカデミアでマイノリティ化された人々のキャリア戦略」、広島大学の相田美砂子先生が「地方協奏による研究人材育成の取組」のテーマで講演し、フロアやオンラインからも今後のダイバーシティやキャリアパスについて活発な質疑応答があり、ハイブリッドの醍醐味を発揮していました。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も5年目に入り、さらに今後は日本神経科学会の法人化という大きな節目もあるため、学会としてのダイバーシティ対応の活性化とその可視化を今後さらに高めて行きたいと考えております。